

伝統的な建築物をひもとき 先人の知恵を未来に伝えたい

釜床美也子さん

KAMATOKO MIYAKO

香川大学創造工学部
建築・都市環境コース
講師・博士（デザイン学）

▶ モダンから伝統へ、 興味が大きく変わった大学時代

大学時代は最先端の現代建築に憧れて都会で学び始めたものの、地域性のない画一的な風景に囲まれて暮らすうちに興味を失って、むしろ伝統的な建築に惹かれるようになりました。その地域にしかないユニークな建物の形や技術が失われていく前に、きちんと価値を見出して保存・継承するのが研究テーマ。フィールドワークを中心に、古い民家や集落の歴史的・文化的価値を調査しています。調査の結果、文化財として大切に保存されることになった街並みや建物も少なくありません。四国は私が最も興味を持つフィールドそのもので、研究対象にあふれていてやりがいがあり、本当に毎日が楽しいんです。



▶ フィールドでの実践を重視

私のスタイルは、調査対象となる建築・景観そのものの維持保存に貢献するとともに、調査から得られた当時の技術や知恵を「新しいものを建てる時に応用する」ことも重視する、研究と実践の二本柱です。古い建物を残す時に、地域の人や学生たちと一緒にワークショップを行うことも。かやぶき屋根の修繕などは、今やカヤを育てるところから始めなくてはいいませんが、今の時代に再現するからこそその面白さも感じます。

▶ 昔ながらの技術の偉大さを実感

実績としては今のところ「維持・保存」例が多いんですが、民芸として愛でるのではなく「建築システムとして優れている点」をいかに発信していくかが今後の課題です。最先端の技術が一番いいんだと思いがちですが、実際に目の当たりにすると、昔の技術がいかに優れているかをあらためて実感しますよ。施工業者に任せず自分たちの手でつくる昔ながらのやり方は、コミュニティづくりにもつながるでしょう。地域の歴史と知恵が詰まった建物の魅力を、多くの人に知ってもらいたいですね。

Profile

徳島県生まれ。2004年に神戸大学発達科学部を卒業、筑波大学大学院で博士号を取得し、神戸学院大学での博士研究員（ポスドク）を経て14年から香川大学で助教を務める。20年から現職。

▶ 海外視察で受けた刺激

ヨーロッパでは自然素材を現代建築に応用するトレンドに触れました。日本の伝統的な木造建築も、新しい可能性を秘めているかもしれないと感じた旅です。



中高生へのメッセージ

今の建築・都市環境コースは学生の3分の1～半数が女性です。建築に興味を持つ女性が増えていることもあって、私自身はこれまで学んできた中で男女の差を感じたことがほとんどありません。フィールドワークでの力仕事などはともかく、学ぶ・働く環境としてはとてもフラットで本当にのびのびと研究できていますから、建築に興味がある人にはぜひ迷わず飛び込んでほしいと思います。

創造工学部
建築・都市環境コース

都市や建築物のデザインには、安心、便利、快適さに加え、自然環境や風土、歴史文化を読み取り、活かすことも大切です。地域の読解力、分析力、構想力、設計力をトータルに学びます。

